

## 第2話〈理念は和合〉の要約と参考資料

### 第2話の要約

カーナビにも載っていない小さな道の奥に土呂久の集落があります。公民館の正面に、128年前に「和合会」という“村の銀行”を創設した佐藤善縁さんの肖像写真。舞台の上には「和合一致」の書。土呂久は、和合を理念として歴史を重ねてきた集落だったのです。

### 第2話の参考資料

#### 2-1 和合会について

土呂久の長老だった佐藤竹松さんの話（1972年8月聴取）

和合会は、明治23年に土呂久部落の窮民を救済する目的でつくられた。その当時、高利貸がはびこっていたので、金に困っている人を助けるため、金の融通できる人が和合会に金を預けておいて、借りたい人に貸し付けるようにした。年に2回くらい金をとりたてていた。わずかなものだが、利ザヤを和合会の基金にした。和合会の創立者は佐藤善縁という坊さんだった。今の公民館長の佐藤福市さんの叔父さんで、生きていれば百二十歳くらい。土呂久を統一するには金融機関をつくらねばと考えたようだ。和合会の総会は、始まる前に必ずお経を読み上げた。規約で、時間の励行、債権者が無理な利息を取り上げる場合は、中に立って弱い人を助けることなどを決めていた。もし犯罪をおかした人がおれば、名誉を守るために外に出さず、内輪でおさめるようにした。亜硫酸製造があるまでは、和合会はおおかたまとまっていたが、製造が始まってから利害の対立が起きて喧嘩会になり、最近壊滅した。

佐藤善縁の兄の孫、佐藤福市さんの話（1977年1月23日聴取）

私が青年団長のとき、公民館に「和合一致」という書がかかっていた。「だれが書いた書な」「和合会をつくった善縁ちゅう人だ」ということで、額をつくって飾った。このとき、うちにある写真を引き伸ばして公民館にかけて、佐藤善縁氏を表彰したことがある。そのとき善縁は土呂久に来なかったので、表彰状などは送った、と思う。写真と額は、戦後なくなった。

#### 2-2 佐藤善縁に礼状を贈ったことを記した和合会議事録

和合会議事録 昭和11年正月24日

佐藤善縁氏ニ対スル贈呈品礼状伝達ノ件